2001年度岩本ゼミ活動報告書

文責　城山卓也

本年度のゼミは、一時は存続の危機にさらされていましたが4月から先生が無事復帰され順調なスタートが切れました。活動内容に関しても、春夏2回の合宿や高経や阪大・一橋、神大・明治・同志社とのインゼミ等、例年どおりの内容の濃い一年間になったのではないでしょうか。

以下、本年度の活動を簡単に記していきます。

春合宿　4月4日～5日

本年度の春合宿は先生の地元の滋賀県で行われました。教科書は去年の分厚いテキストとは違い、薄い文庫本サイズ「金融開国グローバルマネーを手なずけろ」(益田安良著　平凡新書)、「景気と国際金融」(小野善康著　岩波新書)の2冊を用いました。後のインゼミにおける金融班に対しての勉強の導入にもなったと思います。また、皆しっかりと予習をしてきてくれたおかげで、1泊2日という強行スケジュールであったにも関わらず、中身の充実したものとなりました。

前期

今年も例年どおり、テキスト「国際経済学　理論と政策　II国際マクロ経済学」(クルグマン・オブズフェルド共著　新世社)を使用して班ごとに毎週発表するという形式でした。しかし、発表者以外の発言回数が少なく、全体的な理解度は低かったかと思われます。詳細な日程は以下の通りです。

4月17日　国民所得勘定と国際収支
4月24日　為替レートと外国為替市場:アセット・アプローチ
5月15日　貨幣、利子率、為替レート
5月22日　長期における物価水準と為替レート
5月29日　短期における生産量と為替レート
6月5日　短期における生産量と為替レート　続き
6月12日　国際通貨制度　1870年－1973年
6月19日　変動為替レート制下のマクロ経済政策および協調
6月26日　最適通過圏とヨーロッパの経験

7月3日　最適通貨圏とヨーロッパの経験
7月10日　世界規模の資本市場:その実績と政策問題

夏合宿　8月30～31日

夏合宿は温泉街である城崎で行われ、夜はみな外湯めぐりに繰り出していきました。下宿している人たちは、久しぶりにゆっくりと湯に浸かれたのではないでしょうか。ただ、予想外にアルコール消費量が激しく、買い出しに行くのが遠くて一苦労でした。

肝腎の勉強の方は、貿易班と金融班とがそれぞれ「中国 WTO 加盟の衝撃」（鮫島敬治編　日本経済新聞社）、「アジア通貨危機と IMF」（荒巻健二著　日本経済評論社）を用いて発表を行いました。後期のインゼミに向けてみな意欲的に取り組んでくれましたが、やはり自分の担当班ではなくなるとただ発表を聞いているだけという形になってしまっていました。

後期

本年度は後期初日からインゼミに向けての各班の発表を行いました。また、今年から法経館が新しくなったため研究室使用が難しくなり、開いた教室等を利用して、限られた空間と時間の中で勉強会を開いていました。ゼミの時間は主に、勉強会での内容や他大学との交渉経過等の発表の場となりました。今年は、対高経とはディベート形式、阪大・一橋と神大・明治・同志社とは合同発表会とディベート形式だったのは1校のみで少し物足りない面もありましたが、ディベート、合同発表会両方ともレジュメや発表の内容は非常に密度の濃いものとなりました。本番までに費やした数ヶ月間は今思い返してみても、ゼミ生みないろいろと思い入れの強い日々であると思われます。

通常ゼミ

10月2日～12月4日　　インゼミ対策

インゼミ日程

11月17日　　対高経／矢野ゼミ　　ディベート
11月23日　　阪大／阿部ゼミ・一橋／石川ゼミ　　合同発表会
12月8日　　神大／藤田ゼミ・明治／高浜ゼミ・同志社／藤原ゼミ　　合同発表会

参加者

貿易班（高経・阪大・一橋）　　熊野、河村、森本、櫻本、杉、南井、ロージー・ホン
金融班（神大・明治・同志社）　　大塚、城山、西海、小椋、嵯峨、沓脱、小畑

本年度ゼミ総括

前期通常ゼミでは、予習不足等で発表者以外の発言が少なく、非常に静かなゼミでした。また欠席者は少ないものの遅刻者が目立ち、一応ゼミに参加しているといった雰囲気でした。

後期に入ると各班が日ごろの勉強の進展を発表する場となり、それぞれ目的意識をもってゼミに望むことが出来たと思います。また、先の長いインゼミ当日までモチベーションを維持する、よい

機会であったとも思われます。他の班のことまで首を突っ込む余裕がなかなかなかったですが、各班とも非常に内容のあるよいものを作り上げることが出来たのではないでしょうか。

ただ、インゼミに対する意識に個人差があり、一部の人が苦労する結果となったことは今後改善すべき点です。

来年度も9期生ゼミ長沓脱君を中心として、新しい10期生と共にまとまりのある岩本ゼミにしていって欲しいと思います。

最後に、岩本先生、忙しい中ゼミに参加してくださった柴田さん、藤島さん、インゼミでお世話になった諸先輩方に感謝するとともに、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。